

テニス専門部

専門部長 掛園 真樹
専門委員長 小林 正雄

本年度の行事も無事終了できましたことは、県高体連事務局・専門部各委員並びに各学校顧問の先生方のご協力のお陰であり、深く感謝申し上げます。さらに佐賀県テニス協会の方々のご尽力により、テニスの選手強化・指導者講習会・普及活動等の機会を設けていただき、心よりお礼申し上げます。

この1年間のテニス専門部の活動のうち新人大会(平成27年度)及び県高校総体の概要は次のとおりでした。

◎県高校新人大会(参加校・参加人数)

団体	男子24校	女子18校
個人戦	男子シングルス	120名
	ダブルス	82組
	女子シングルス	96名
	ダブルス	63組

◎県高校総体(参加校・参加人数)

団体	男子25校	女子20校
個人戦	男子シングルス	122名
	ダブルス	83組
	女子シングルス	103名
	ダブルス	69組

☆前年度の新人大会では、男子団体戦は、第2シードの致遠館高校が準決勝・決勝で熱戦を制し、15年ぶり2回目の優勝を果たした。一方、第1シードの龍谷高校が順当に勝ち上がり、15年連続の九州大会出場を決めた。第3位には鳥栖高校、鹿島高校が入賞した。

女子団体戦では、第2シードの佐賀商業高校が決勝での接戦を制し2年連続5回目の団体優勝を果たした。第2位には、第1シードの鳥栖商業高校が順当に勝ち上がり2年連続の九州大会出場を決めた。第3位には鹿島高校、唐津南高校が入賞した。

個人戦男子は、シングルスでは、第2シードの財前達担(龍谷)が実力を発揮し、優勝を果たした。第2位には、原口顕輔(致遠)、第3位には鈴木宗生(龍谷)、山口遼(龍谷)が入賞した。ダブルスでは、第1シードの鈴木・田口組(龍谷)が決勝での接戦を制

し、優勝した。第2位には原口・川副組(致遠)、第3位には亀飼・安西組(鹿島)、財前・山口組(龍谷)が入賞した。

個人戦女子は、シングルスでは、第1シードの佐藤成美(鳥商)が圧倒的な力を発揮し、2年連続となる優勝を果たした。2位は白武七海(鳥商)、第3位には友枝愛(早佐)、南咲希(佐商)が入賞した。ダブルスでも、第1シードの佐藤・白武組(鳥商)が圧倒的な力を発揮し、優勝を果たした。2位には友枝・峰組(早佐)、3位には藤家・田代組(鹿島)、南・福田組(佐商)が入賞した。

☆本年度の高校総体は男子団体戦では、群を抜いた力をもつ龍谷高校が、16年連続22度目の団体優勝を果たした。全試合で1ポイントも落とさず、圧倒的な強さを発揮した。一方準優勝は、第3シードの鳥栖高校が勝ち上がり、初の九州大会出場を決めた。第3位には致遠館高校、武雄高校が入賞した。

女子団体戦では、第1シードの鳥栖商業高校が、全試合で1ポイントも落とさず、圧倒的な強さを発揮し、3年ぶり2回目の優勝を果たした。一方準優勝は、第3シードの致遠館高校が準決勝で佐賀商業高校を振り切り、九州大会出場を決めた。第3位には佐賀商業高校・鹿島高校が入賞した。

個人戦男子は、シングルスでは、第1シードの鈴木宗生(龍谷)が順当に勝ち上がり、優勝を果たした。第2位は財前達担(龍谷)が、第3位には田口 貴寛(龍谷)、安西 大虎(鹿島)が入賞した。ダブルスでは、第1シードの鈴木・田口組(龍谷)が確実な試合展開で、優勝を果たした。第2位には亀飼・安西組(鹿島)が準決勝での接戦を制し九州大会出場を決めた。第3位に財前・山口組(龍谷)、原口・川副組(致遠)が入賞した。

個人戦女子は、シングルスでは、佐藤成美(鳥商)が圧倒的な強さを発揮し、3年連続となる優勝を勝ち取った。第2位には白武七海(鳥商)が、第3位には友枝愛(早佐)、古賀里奈(致遠)が入賞した。ダブルスでも、第1シードの佐藤・白武組(鳥商)が確実な試合展開で、2年連続の優勝をおさめた。第2位には南・峯松組(佐商)が、第3位には藤家・田代組(鹿島)、友枝・峰組(早佐)が入賞した。